

仔牛価格が堅調な畜産については、飼養農家戸数並びに飼養頭数が減少傾向にあるとともに輸入牛肉の拡大が懸念され、国・県において支援施策が進められています。また、農業に不可欠な「土づくり」に直結するたい肥の確保の視点からも、国や県の動向を注視しながら畜産の振興に取り組みます。

国営土地改良事業もおおむね計画どおり進捗しており、国営関連附帯工事（畑かん施設）も順調に進められています。一部の地域では試験通水も行われており、今後の事業進捗状況を勘案しながら通水区域も年々拡大する計画であり、全面通水後の畑かんを利した営農体系の確立は急務であるので、県の農業普及機関やJAと連携を図りながら営農体制の強化に努めます。地域資源の活用対策については、えらぶ特産品加工場で作られている「シマ桑」の販路拡大に努め、栽培面積の拡大を図りながら原料の安定的確保に努め、「ちなブランド」の確立を図ります。

水産業では、より良い漁業環境づくりのため、漁港施設の維持管理に努めるとともに、水産資源の保全、漁業組合や関係機関と連携した取り組みを行ってまいります。

■ 商工観光産業の活性化

30年度も引き続き奄美群島振興交付金の活用で地域間交流の促進に努めるとともに、念願の「国立公園」指定も実現いたし、これを前提とした奄美群島（奄美大島及び徳之島）、沖縄北部の「世界自然遺産」登録も本年夏頃に予定されており、琉球弧が一体となつて世界の注目を浴びる事となります。

また、奄美群島アイランドホッピングルートの開設や鹿児島での国民体育大会の開催など、奄美群島全体に交流人口の拡大に繋がる絶好のチャンスになります。本町でもこうした状況を千載一遇のチャンスとして捉え、自然環境の保全や観光地の整備、観光客の誘致や受入体制の充実、交通・運輸機関との



連携等に取り組みます。さらに、旧下平川保育所にオープンした「おきのえらぶ島産業クラスター創出拠点」は、地域住民はもとより、島出身者や観光客等との交流機会を戦略的につくりだし、沖永良部発の新産業の創出・既存産業の高付加価値化につなげ、「住んでよし訪れてよし」の島づくりを実現させるものです。このことにより交流人口の拡大が図られ、地域の活性化に繋がるものだと思います。

■ 開かれた行政づくり

町民との対話を大切にす行政として、身近なところの公共施設の活用方法、各種行事、イベントの洗い直しを行う一方、向こう5年間・10年間の町づくり、町おこし事業のための町民組織を新設し、実効性のあつるものにすべきと考えております。

また、親しみやすい役場としての在り方を再考しなければなりません。このためには、「知名町民会議」（仮称）を設置して、広く町民の欲していることを捉えた行政施策に取り組んでまいります。

― むすびに ―

「吾は、我が志を行わんのみ」
これは明治維新にかかわった多くの若者に影響を与えたとされる吉田松陰が残した言葉の一つですが、その志とは、「世のため人のため、そして未来がより幸せになるために、全力を尽くすこと」だと述べられております。

町長就任以来、まさに激動の幕末を生き抜いた志士の如く、この志を胸に全力を尽くしていく覚悟で取り組んでおります。

未来の子どもたちに「住んでよかつたと思える幸せなまち」を残していくことは、今を生きる私たちの責務であります。そのためには、目先のことだけにとらわれることなく大局的な視点から、未来を見据えたまちづくりをさらに進めてまいります。

依然として、地方を取り巻く環境は厳しい状況にあります。このような時代だからこそ私たち行政のみならず、町民の皆様、そして議会が志を共にし、一致協力していくことで持続可能なまちづくりが実現するものと確信しております。

「住んでよし 訪れてよし」の

島づくりの実現へ